

森美術館 TikTokとパートナーシップ提携

「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」展より定期的に
TikTok LIVE、TikTokクリエイターとのコラボ、#emptyなどを展開！

森美術館はこのたび、ショートムービープラットフォーム「TikTok(ティックトック)」とパートナーシップ契約を締結しました。

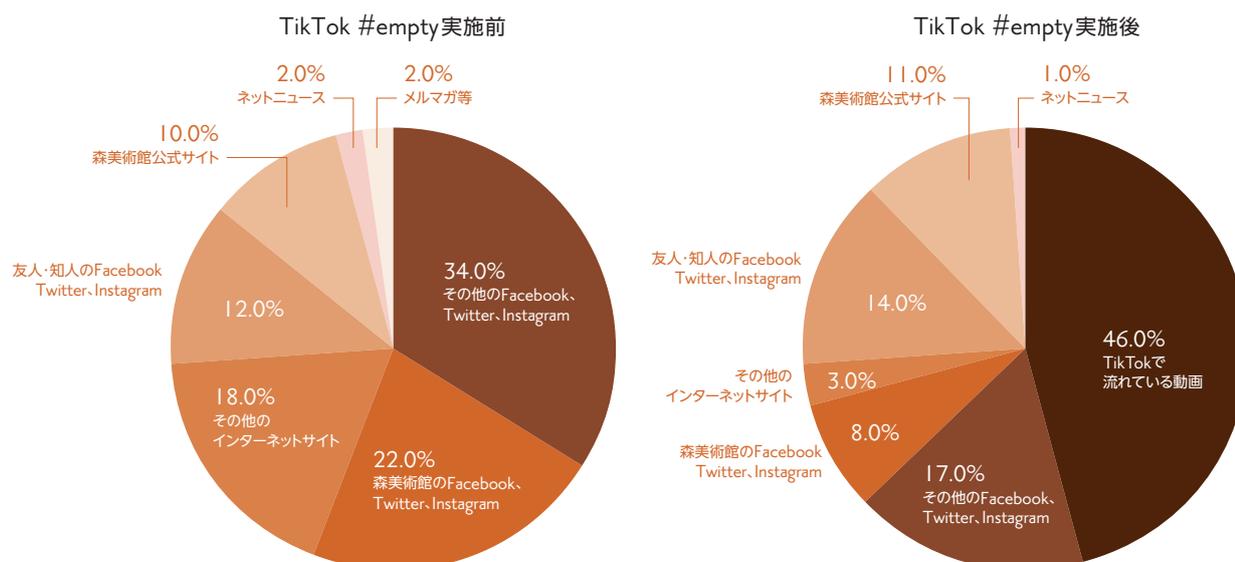
森美術館では2021年4月にTikTokのアカウントを立ち上げ、運用を開始。コロナ禍で臨時休館中の同年5月18日には、TikTokが「国際博物館の日」を記念して実施した、世界12か国、23の美術館・博物館を繋ぐライブ配信リレー「#MuseumMoment」に日本の美術館としては唯一参加。世界のアートファンに向け、「アナザーエナジー展」*1のTikTok Liveツアーを実施し、合計視聴回数は86,085回を数えました。

また、直近の「Chim ↑ Pom展」*2では、TikTokクリエイターたちを招き、閉館後の空っぽの展示室で撮影を行うイベント「#emptymoriartmuseum」(以下#empty)*3を実施しました。この時クリエイターたちが撮影した投稿がきっかけとなり、一般来館者のTikTok投稿も急増、イベントの実施前後で来館者動向に顕著な変化が見られました。

来館者へのアンケート*4によれば、#emptyの実施後、来館のきっかけとなった情報源を「スマホ」と回答した人*5のうち46%が「TikTokの投稿動画を見て」と回答しています。また、年齢属性では実施前はTikTokユーザー層である10代、20代があわせて52%であったのに対し、実施後は70%を超える状況となりました。さらに、森美術館に初めて来館した人は、実施前は33.3%、実施後は59.5%と倍増しました。

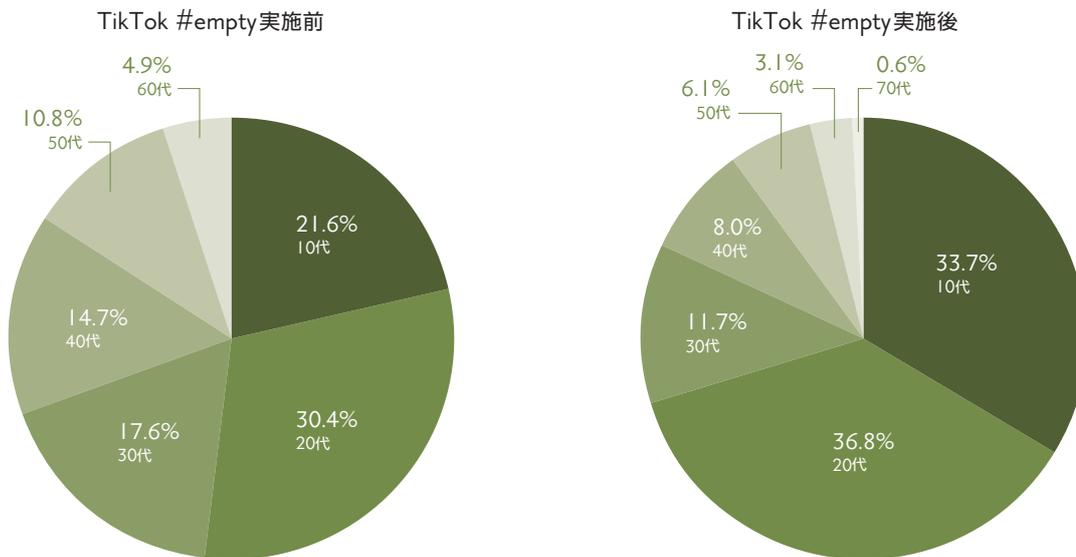
【森美術館来館者アンケートより】

■ 来館のきっかけとなった情報源「スマホ」の内訳

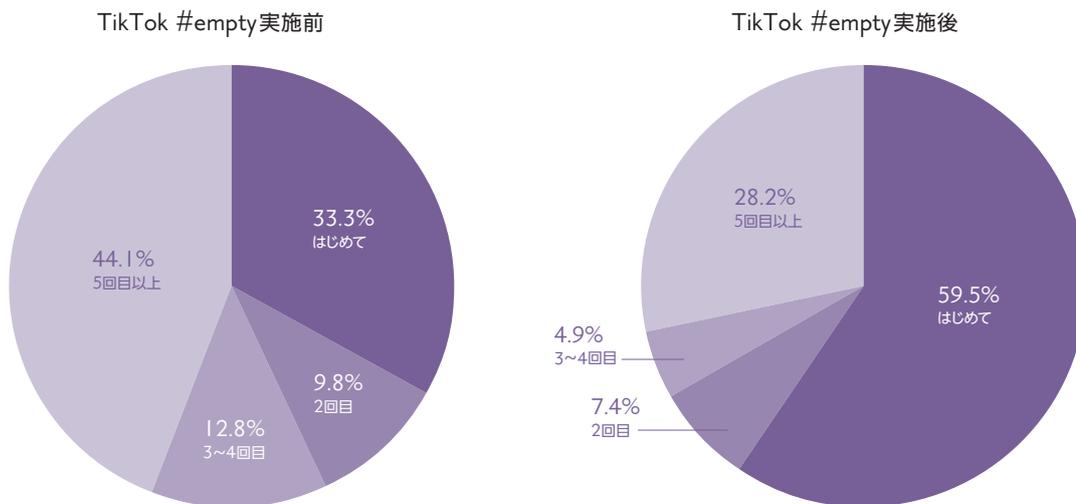


プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 来館者の属性(年齢)



■ 来館回数



- ※ 1 「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト16人」(会期：2021年4月22日—2022年1月16日)
- ※ 2 「Chim ↑ Pom展：ハッピーズプリング」(会期：2022年2月18日—5月29日)
- ※ 3 empty (「空っぽ」の意)の文字どおり、閉館後の一般客がいない展示室に、複数のインスタグラマーを招き、撮影・シェアしてもらうイベント。2013年にニューヨークのメトロポリタン美術館で初めて公式に開催された。その後、世界各地の美術館に拡がり、2017年に森美術館が日本で初めて「#empty」を実施。森美術館ではその後も継続的に実施している。
- ※ 4 アンケートの実施期間は、「Chim ↑ Pom展」会期中の2022年2月18日~5月29日。
- ※ 5 来館のきっかけとなった情報源で「スマホ」と回答した人は、#empty実施前、後ともに全体の約70%。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

森美術館とTikTokは今後、パートナーシップを通じて、ギャラリーツアー等のTikTok LIVE、TikTokクリエイターの撮影会(#empty)を各展覧会で定期的の実施し、相互に協力して美術館や展覧会の魅力をTikTokにて発信します。今回のパートナーシップ締結にあたり、館長の片岡は次のように語っています。

「美術館の持続可能性を考えると、未来を担う若い世代へいかにアプローチしていくかがひとつの鍵となるでしょう。これまで現代アートに馴染みのなかった方たちが、TikTokの投稿をきっかけに気軽に美術館に訪れていただけるようになると嬉しいです。現代アートは世界を映し出す縮図です。アートをとおして多様な価値観や思想、アイデンティティに出会い、豊かな人生を、そしてより良い未来を築いていきましょう」

なお、パートナーシップの最初の取り組みとして「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」展(会期：2022年6月29日ー11月6日)の閉館後の展示室内で、以下のイベントを実施します。森美術館とTikTokの今後の取り組みに是非ご注目ください。

■TikTok LIVE with 修一朗@森美術館「地球がまわる音を聴く」

配信日：2022年7月中旬予定

フォロワー190万人のクリエイター、修一朗氏を招き、本展キュレーターと共に展覧会のライブツアーを実施します。

■#emptymoriartmuseum for TikTok creators

実施日：2022年7月12日(火)

TikTokクリエイターたちを招き、撮影会を実施します。

ご取材に関するお問合せ

「#emptymoriartmuseum for TikTok creators」へのご取材を希望される方は森美術館広報事務局までお問合せください。

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)担当：日比、松川、花上

Tel: 03-6264-2039 Mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

TikTokについて



TikTokはモバイル向けのショートムービープラットフォームです。TikTokのミッションは、創造性を刺激し、喜びをもたらすことです。TikTokには、ロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ベルリン、ドバイ、ムンバイ、シンガポール、ジャカルタ、ソウル、東京などの国と地域にグローバルオフィスがあります。

森美術館のTikTokアカウント

<https://www.tiktok.com/@moriartmuseum>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、花上
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」概要

展覧会名：「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」

主催：森美術館

企画：片岡真実（森美術館館長）

熊倉晴子（森美術館アシスタント・キュレーター）

徳山拓一（森美術館アソシエイト・キュレーター）

会期：2022年6月29日（水）～11月6日（日）

会場：森美術館（東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階）

開館時間：10:00-22:00（火曜日のみ17:00まで）

*入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料：

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	1,800円	1,600円	2,000円	1,800円
学生（高校・大学生）	1,200円	1,100円	1,300円	1,200円
子供（4歳～中学生）	600円	500円	700円	600円
シニア（65歳以上）	1,500円	1,300円	1,700円	1,500円

* 事前予約制（日時指定券）を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。

* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

* 表示料金は消費税込。

* 音声ガイド付きチケット（+ 500円）も販売しています。

* 東京シティビュー（屋内展望台）、スカイデッキ（屋上展望台）、森アーツセンターギャラリーへの入館は別料金になります。

* 本展のチケットで、同時開催の「MAM コレクション015：仙境へようこそーやなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平」、 「MAM スクリーン016：ツァオ・フェイ（曹斐）」 「MAMリサーチ009：正義をもとめてーアジア系アメリカ人の芸術運動」をご鑑賞いただけます。

一般のお問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

詳細：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

